

# 学校感染症の診断書及び証明書

所 属 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_

1. 上記の者について、次の病気(○印)と診断しました。
2. 上記の者について、次の病気により \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日から \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日  
( \_\_\_\_\_ 日間)まで出席(出勤)を停止したことを認めます。

種 類	○ 印	病 名	出 席 停 止 期 間 の 基 準 (※ただし、医師が伝染のおそれがないと認めたときは、この限りではない)
第1種		病名( )	治癒するまで
第2種		インフルエンザ ( ) 型)	発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後、2 日 (幼児にあっては、3 日)を経過するまで
		百日咳	特有の咳が消失するまで又は 5 日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
		麻疹	解熱した後、3 日を経過するまで
		流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後 5 日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
		風しん	発しんが消失するまで
		水痘	すべての発しんが痂皮化するまで
		咽頭結膜熱	主要症状が消退した後、2 日を経過するまで
		結核	医師が感染のおそれがないと認めるまで
		髄膜炎菌性髄膜炎	症状により学校医等において感染のおそれがないと認めるまで
第3種		コレラ	医師が感染のおそれがないと認めるまで
		細菌性赤痢	
		腸管出血性大腸菌感染症	
		腸チフス	
		パラチフス	
		流行性角結膜炎	
		急性出血性結膜炎	
		(下記は条件によって出席停止の措置が必要と考えられるもの)	
		溶連菌感染症	抗生剤治療開始後 24 時間を経て全身状態が良くなるまで
		手足口病	発熱、口内疹などの急性期症状が消退して、全身状態の安定するまで
	伝染性紅斑	発疹のみで全身状態がよければ出勤(園)可能	
	感染症胃腸炎(ノロウイルス感染症・ロタウイルス感染症)	症状が改善し、全身状態の良くなるまで	
	その他の感染症( )	症状が改善し、全身状態の良くなるまで	

(注)「その他の感染症」とは、ウイルス肝炎・マイコプラズマ感染症・流行性嘔吐下痢症・ヘルパンギーナをいいます。

「通常出勤停止の措置は、必要ないと考えられる感染症」 アタマジラミ・水いぼ(伝染性軟疣(属)腫)・伝染性膿痂疹

平成 年 月 日

医 療 機 関 名 \_\_\_\_\_

医 師 名 \_\_\_\_\_

㊞